

21

世

紀

へ

の

飛

躍



熊本市制100周年

くまもと
'89市勢要覧

K U M A M O T O

6-
80



●目 次

熊本市民愛市憲章	1
市木・市花・市鳥	2
発刊のことば	3
新しいあしたへ 一くまもと、大いなる100年。	4
熊本市100年のあゆみ	6
名 誉 市 民	13
地 域 と 気 象	14
人 口	15
熊本市制100周年記念行事 くまもと百彩	18
(都市の年輪) 市制100周年への対応	23
記 念 事 業	23
(都市の活力) 地域経済の活性化	25
産 業	25
商 業	26
工 業	27
雇 用 福 祉	28
農林水産業	29
観 光	30
(都市のトレンド) 変革の時代への対応	35
国際交流	35
女性の地位の向上	36
長寿社会	37
心身障害者福祉	38
児童・母子福祉	39
社会保障	40
(都市の円熟) 魅力ある都市環境の形成	43
緑 と 水	43
公 害 防 止	44
保 健 衛 生	45
(題字) 熊本市長 田尻清幹	
[表紙説明]	
長堀通り	
熊本城の長堀と坪井川を挟んで、都心部シンボルゾーンへと続く長堀通りは、明治のノスタルジックな風情をかもし出し、夢とロマンと、やすらぎの光が灯る歩いてみたくなるような遊歩道です。路面は、深みある彩色の自然石を敷きつめ、歩道に沿って城の石垣を模した手すりや、川に突き出した物見台が連なり、シダレヤナギの並木も川風に揺れています。夜のとばりがおりると、ガス灯の光は輝き、光のシャワーが長堀と城の緑樹にきらめきます。	
この長堀通り(総延長263m)は、昭和63年4月に完成し、都心部シンボルロードとともに市制百周年に彩りを添えます。	

熊本市民愛市憲章

品位ある市民の誇りのために

私たち熊本市民は 清潔で住みよい街をつくりましょう

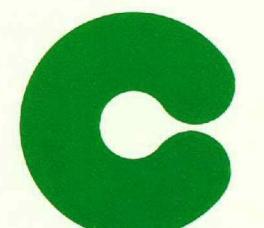
私たち熊本市民は 郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう

私たち熊本市民は 時間を正しく守りましょう

私たち熊本市民は 交通道徳を重んじましょう

私たち熊本市民は 互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

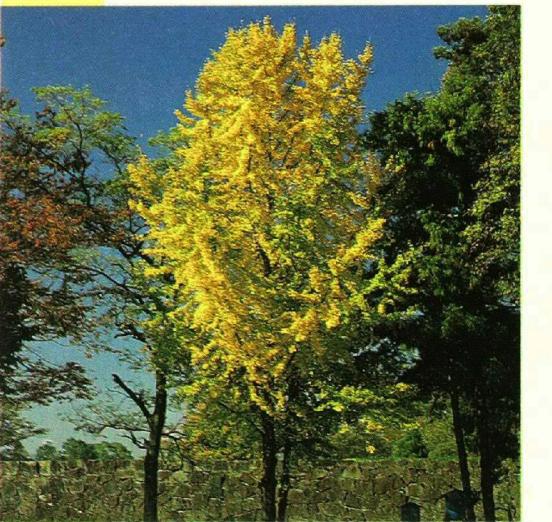
昭和35年5月11日制定



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

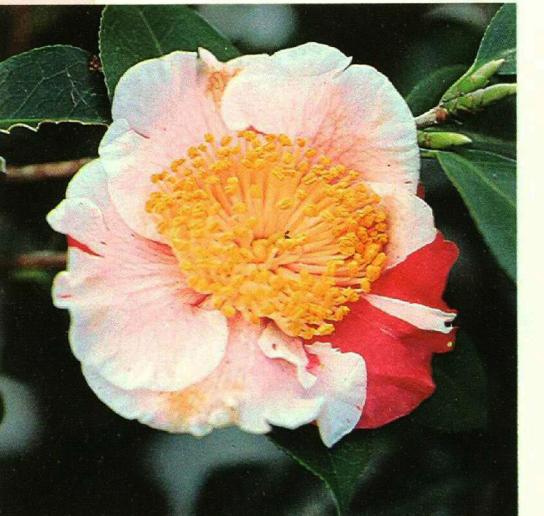
市木



●市木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。

市花



●市花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。

市鳥



●市鳥 シジュウカラ(シジュウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帶が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(写真は東海大学出版会提
供フィールド図鑑より)

市木・市花 昭和40年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定

発刊のことば

本年、熊本市は、平成の新時代とともに市制百周年の記念すべき年を迎えました。

顧みますと、明治22年の市制施行以来、緑と水に恵まれた豊かな自然と、先人が築いた素晴らしい伝統と文化を受け継ぎつつ、今や人口57万人を超える九州中央の雄都として着実に発展を続けております。

これも偏に、幾多の困難を克服し、今日の近代都市熊本の礎を築きあげた先人の御功績と市民の皆様の御努力の賜であり、深甚なる敬意と感謝を捧げる次第であります。

私は、この市制百周年という大きな歴史的転換期を迎えるにあたり、決意を新たにして、市民の皆様と力を合わせ、これまで以上に勇気と斬新な発想をもって、21世紀更には次なる百年に向かっての新熊本市の建設に、取り組む所存であります。

本市においては、現在「活力に満ちた思いやりあふれる新しいふるさとづくり」を市政推進の基本理念として「市制百周年への対応」、「地域経済の活性化」、「変革の時代への対応」、「魅力ある都市環境の形成」、そして「21世紀を支える人材の育成」の5つの施策（ポリシー5）を市政の重点課題と位置づけ、その積極的な展開を図り、個性ある熊本市づくりに邁進しております。

殊に、本年は、市民の共感と参加を基調とした多彩なイベントを繰り広げつつ、都心部シンボルゾーンにおける駐車場建設への着手、総合婦人会館・カルチャーセンター建設、人づくり基金の創設など、この市制百周年を市民と共に祝い、次なる百年への第一歩と位置づけ、本市の新たにして大いなる飛躍につなげなければならないと考えております。どうか市民の皆様のより一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

この市勢要覧は、伸びゆく熊本市の姿を収録したものであり、市政への一層の御理解をお深めいただければまことに幸いに存じます。

平成元年3月 熊本市長

田尻 雄幹



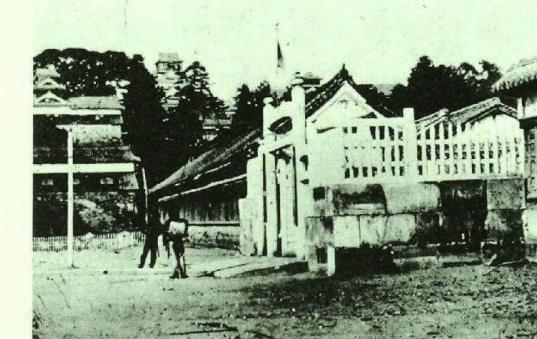
新しいあしたへ

もと、大いなる100年。

くまとの100年。
それは、大河ドラマよりも
はるかに壮大なロマン。
そして、これから始まる
新たなる100年に向けての
大いなる助走。
可能性に満ちた街、くまとの
輝かしいあしたへ、
いま、新しい一步を
踏み出すときです。



熊本市100年のあゆみ



鎮台花畠本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

西暦
大化
646 大化2年 砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される
文明
1469 文明1年 菊池氏の一族、出田秀信
千葉城を築く
明応
1496 明応5年 鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する
慶長
1601 慶長6~12年 加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う
寛永
1607 寛永9年 細川忠利、肥後藩主となる
宝暦
1754 宝暦4~6年 藩校時習館、医学校再春館、藩滋園(薬草園)などが創設される
明
1756 1870 明治3年 古城に医学校が創設される
1871 古城に医学校が創設される
4年 廃藩置県により熊本県が設置される
鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される
熊本洋学校が創立される
治
1871 4年 廃藩置県により熊本県が設置される
鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される
熊本洋学校が創立される



新南千反畠町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。
7月 第五高等中学が古城から黒髪に移転
1890 23年1月 熊本測候所が設置される
7月 第1回衆議院議員総選挙が行われる

明
1874 7年 九州最初の新聞、白川新聞が発行される
1877 10年 西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
1886 19年 熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
1887 20年 第五高等中学校(九州に1校)が創立される
1889 22年4月 市町村制が施行され、熊本市が誕生する
市域面積5.55km²、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった
6月 赤十字社熊本支部設立
新南千反畠町、現在の白川公園前に市役所が開庁



明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

明
1890 23年10月 教育勅語発令(井上毅と元田永孚が成案)
11月 第1回帝国議会が開かれる
1891 24年7月 門司・熊本間の九州鉄道が開通
熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
11月 ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
1892 25年4月 塙林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
1894 27年7月 第6師団に動員令がくだる孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
8月 日清戦争がはじまる
1895 28年11月 イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
1896 29年4月 夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
9月 私立医学校が設立される
1898 31年1月 熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置
10月 フランス人、ジョン・メリーコール神父が癩救済の待労院を設立
この年、市立避病院設立(後の白川病院)
第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
32年6月 私立医学校が熊本医学専門校となる

明治
1899 32年12月 三角線開通
1900 33年7月 市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
1901 34年1月 熊本郵便局が電話業務を開始



明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。

明
1902 35年11月 明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を挙行 行幸橋を架設
治
1903 36年3月 市区改正の事業と新市街の事業完成

明治
1904 37年2月 日露戦争はじまり、第6師団出征
1906 39年3月 熊本高等工業学校設立
9月 夏目漱石が「草枕」を発表
1907 40年7月 九州鉄道が国有となる
12月 熊本軽便鉄道株式会社が安曇橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設



軽便鉄道。K.K.T.K.は熊本軽便鉄道株式会社の略。

治
1908 41年2月 人力車争議おこる
1909 42年 鹿児島本線全線開通
1910 43年1月 薬学専門学校発足
4月 女子師範学校発足
6月 熊本ガス株式会社が開業する
1911 44年4月 市立実科高等女学校開校
市立工業徒弟学校開校
10月 菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設



大正2年10月3日二階建
八角形の肥後相撲館が落成した。

- 1913 大正2年
この年、熊本軌道が田崎・百貫港、
田崎・高麗門に開通
- 1914 3年7月
第1次世界大戦はじまる
- 1915 4年11月
御大典記念奉祝共進会を開催
- 1916 5年6月
県公会堂が市に移管される
- 1917 6年3月
熊本市工業従弟学校が
熊本商工学校となる
- 1918 7年7月
このころより全国に米騒動
10月
スペイン風邪が流行し、
全国で死者15万人
- 1920 9年10月
第1回国勢調査で、
市人口70,388人
戸数 13,817戸 (市史)
- 1921 10年6月
隣接11ヶ町村を合併、
人口133,467人
戸数23,819戸の大熊本市が発足
(黒髪・池田・花園・島崎・横手・
春日・古町・本荘・春竹・大江・
本山)



大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人たち。

大正末の市街地。合併による市域の拡大、
三大事業の完成など、市の中心から周辺へと
都市づくりが進む。

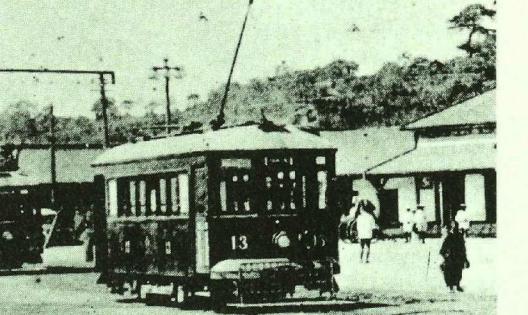
熊本市100年のあゆみ

- 1922 大正11年4月
熊本市立実科高等女学校が
熊本市立高等女学校となる
5月
熊本医学専門学校が医科大学に
12年12月
手取本町に市役所新庁舎完成



大正12年12月、市役所新庁舎完成。

- 1924 正13年8月
市営電車開通(車輛15台)
開通に伴い鉄筋コンクリート大甲
橋を架設



大正13年8月1日市電開通。救助網がついている
開通当時の13型電車。

- 10月
歩兵第23連隊が
渡鹿に移転
11月
熊本市上水道完成



- 1925 大正14年3月
市三大事業(市電、上水道、
23連隊移転)完成記念共進会開催
入場者133万人
4月
出水村を市に合併
15年8月
三大事業完成記念共進会の剩余金
で五高と下河原にプールを造成
昭和2年2月
長六橋を近代式鉄橋に架け替える
7月
市立工業研究所(後の工芸指導所)
が開所

- 12月
市営バス発足(バス17台)
この年、市及び市付近の人力車812、
乗用馬車4、自動車115

- 昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。
(写真は昭和8年6月)
- 1928 和10年3月
第16回総選挙、最初の普通選挙
行われる
6月
NHK熊本放送局でラジオ初放送
9月
御大典記念事業として、
陸上競技場・野球場が完成

- 4年7月
水前寺動物園が開園
5年3月
熊本市歌を制定

- 1930 昭和5年4月
市営勧業館が新市街に開館
10月
市公会堂新館が開館

- 昭和5年5月、公会堂の新館が開館。
昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。
- 1931 昭和6年6月
白坪村を市に合併
11月
天皇陛下をお迎えし、熊本平野等
で陸軍特別大演習を举行

- 昭和7年9月
失業救済の土木事業をはじめる
12月
画団村を市に合併
8年3月
花園町に市営墓地を開設
4月
熊本高等小学校が再設開校
熊本駅に観光案内所を設置

- 昭和10年3月
新興熊本大博覧会を開催
昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。
- 1946 和10年3月
市立市民病院発足
11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる

昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。

- 1936 昭和11年11月
健軍村を市に合併
14年4月
清水村を市に合併

- 1940 15年12月
川尻町、日吉村、力合村を合併
この年、市営バスに木炭車登場

- 1941 16年4月
小学校が国民学校に改められる
12月
太平洋戦争はじまる

- 1942 17年4月
九州日日新聞と九州新聞が
統合され、熊本日日新聞が発足

- 1943 18年
この年、学徒、女子挺身隊の
戦時勤員が開始される
健軍に三菱重工業航空機製作所が
完成する

- 1944 19年3月
市電気局が市交通局と改称

- 1945 20年6月
市立産院が発足
7月
7月・8月の空襲で市の大半が
焦土と化す

- 8月
終戦の詔書放送
21年2月
市立市民病院発足

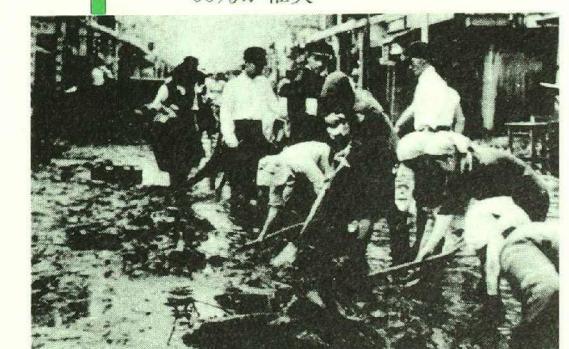
- 11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる
22年4月
市長、県知事が初めて公選で
決まる。国民学校が小学校に
また新制中学が誕生

- 5月
憲法、地方自治法施行
23年3月
市消防本部設置

- 市立母子寮を開設
昭和28年6月26日大水害の惨状。到る所泥の山。
流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と時日
を要した。



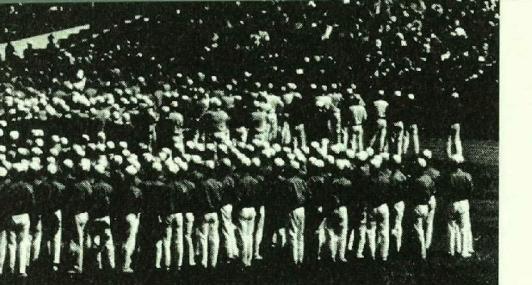
昭和10年頃の新市街記念碑、
市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、
右に勧業館、電話局が見える。



「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。
流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と時日
を要した。

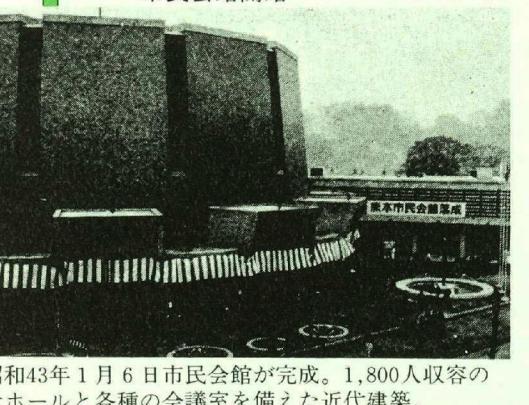


昭和35年9月、83年ぶりに
熊本城天守閣が再建された。



昭和35年10月、
第15回国民体育大会は、
全国から1万3千人が集まり
盛大に開催された。

- 昭和
1953 28年7月 池上村、高橋村、城山村を市に合併
10月 市立図書館発足 ラジオ熊本開局
1954 29年6月 市自治警察廃止（警察制度改革）
10月 秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光博覧会」を開催
1955 30年4月 松尾村を市に合併
31年4月 託麻村の一部を市に合併
1956 32年1月 小島町、龍田村を市に合併
7月 大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者、行方不明多数を出す
1958 33年2月 NHK熊本テレビ開局
4月 中島村を市に合併
天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧
第30回選抜高校野球大会で 濟々囊が優勝
9月 熊本市体育館が水前寺公園横に完成
34年4月 国民年金制度発足
7月 国民健康保険制度発足
35年4月 熊本空港開設
5月 愛市憲章を制定
8月 熊本城天守閣再建完成



昭和43年1月6日市民会館が完成。1,800人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

熊本市100年のあゆみ

- 昭和
1960 35年9月 第15回国民体育大会を開催
12月 西保健所を開設
1962 37年3月 天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催
38年4月 北部清掃事業所開所
39年4月 市総合計画策定（マスター・プラン）
10月 「まちをキレイにする運動」がはじまる
12月 東部汚水処理場完成
40年4月 市食肉センター開所 この年、市内全小学校にプール完成
41年9月 西部清掃事業所開所 市民相談室を設置
10月 熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足
1965 42年3月 出水町に県庁新庁舎が完成
1966 43年1月 市民会館開館
1967
1968
- 昭和46年6月熊本・植木間の高速自動車道が開通した。

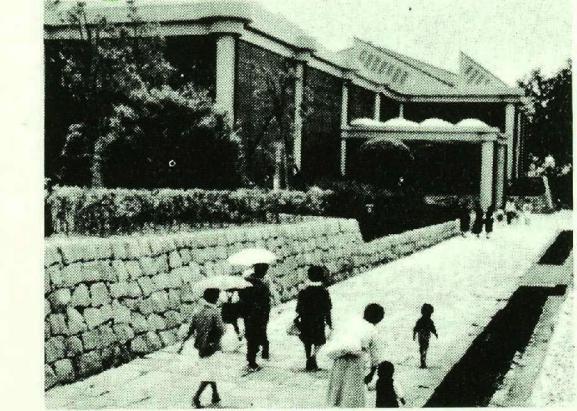


- 7月 熊本市基本構想amar
11月 市立ユースホステル開館
1972 47年10月 「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
12月 秋津下水処理場が完成
48年1月 戸島町に市斎場開設
5月 学校給食東共同調理場が完成

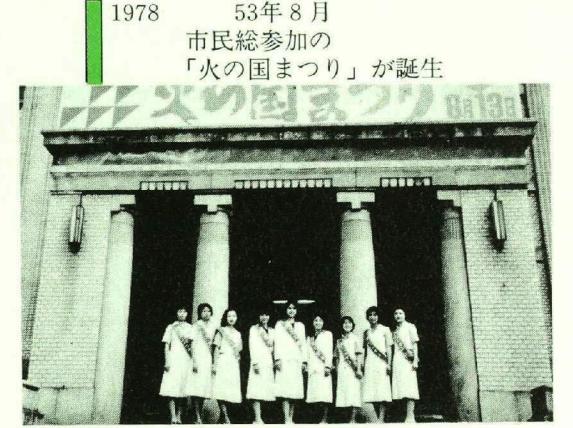


昭和52年9月
東部市民センター開設。

- 昭和
1968 43年4月 市社会教育会館が開館
市育英奨学制度創設
44年4月 熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
8月 熊本市章きまる
45年11月 託麻村を市に合併
46年4月 新熊本空港開設
5月 市勤労青少年ホーム開館
6月 九州縦貫自動車道（熊本・植木間）開通
1970
1971
1974 49年6月 勤労婦人センターを本山町に開設
10月 西部、南部市民センターが完成 森の都のシンボルとして市の木「イチョウ」、市の花「肥後ツバキ」がさまる
50年5月 身体障害者福祉モデル都市に指定される
9月 南千反畠町に中央老人福祉センターが完成
10月 市立金峰山少年自然の家が開所
51年3月 「地下水保全都市」を宣言
1975 52年4月 西南の役百周年記念式典を行う
5月 熊本市人口が50万人を突破
9月 錦ヶ丘に東部市民センター完成 地下水保全条例を制定する
1976 53年4月 新しい熊本博物館が開館
1977
1978 54年4月 東部清掃工場完成
昭和54年4月、最新の処理機能を誇る、東部清掃工場完成。



郷土熊本に根ざした西日本一を誇る熊本博物館が昭和53年4月1日に開館した。

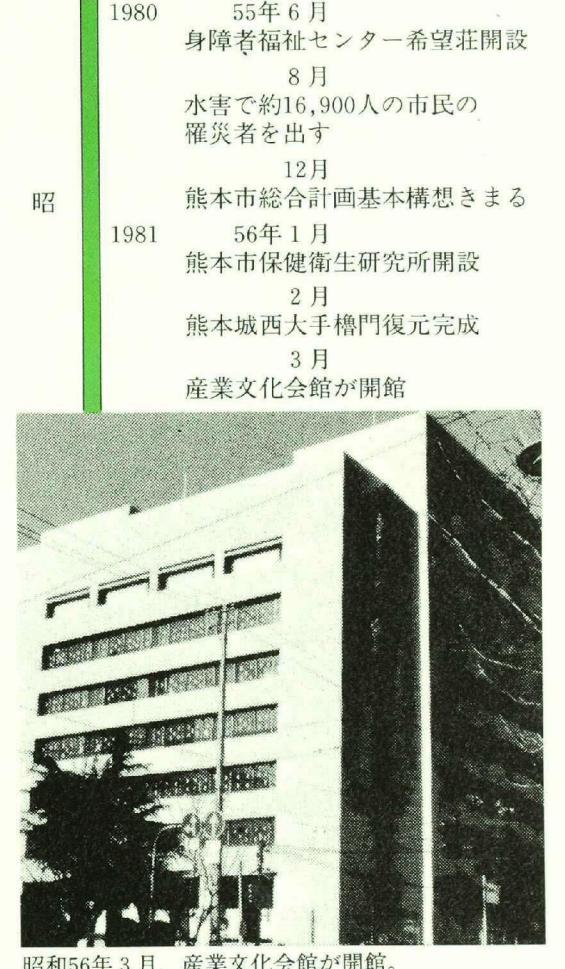


昭和53年8月
市民総参加の「火の国まつり」が誕生

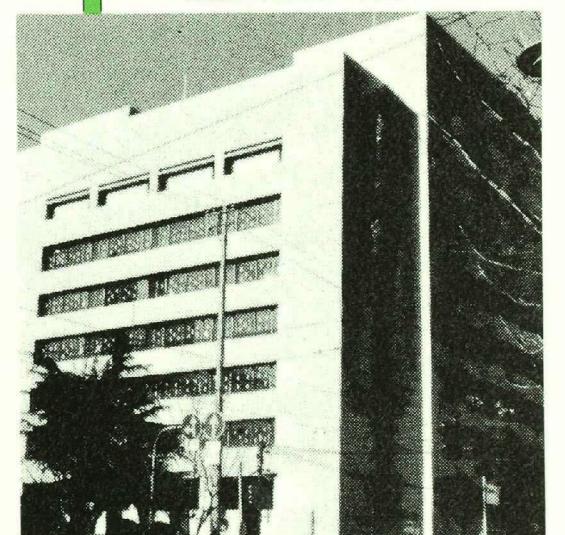


昭和54年4月
最新の処理機能を誇る、東部清掃工場完成。

- 昭和
1979 54年4月 新熊本市民病院開設
7月 熊本市保健センター（現東部保健センター）が開所
龍田市民センター完成
10月 「健康都市」を宣言
中国・桂林市と友好都市締結
市制90周年記念式典を行う
養護老人ホーム明生園開園



- 昭和
1980 55年6月 身障者福祉センター希望荘開設
8月 水害で約16,900人の市民の罹災者を出す
12月 熊本市総合計画基本構想amar
1981 56年1月 熊本市保健衛生研究所開設
2月 熊本城西大手櫓門復元完成
3月 産業文化会館が開館



- 昭和
1980 55年6月 身障者福祉センター希望荘開設
8月 水害で約16,900人の市民の罹災者を出す
12月 熊本市総合計画基本構想amar
1981 56年1月 熊本市保健衛生研究所開設
2月 熊本城西大手櫓門復元完成
3月 産業文化会館が開館



昭和54年10月1日、市制90周年の記念すべき式典の席上で中国桂林市と友好都市締結。

熊本市100年のあゆみ



昭和56年11月、新市庁舎建設完成。

1982 57年6月
幸田市民センター完成
北部保健センター開所
7月
小楠記念館完成
青少年野外活動センター完成
8月
西ドイツ・ハイデルベルク市
管楽五重奏団来熊

11月
図書館完成
58年4月
龍田体育館完成
59年5月
市の鳥としてシジュウカラ制定
扇田埋立処分場供用開始
7月
清水市民センター完成
8月
熊本市の人口が55万人を突破
10月
消防新庁舎完成

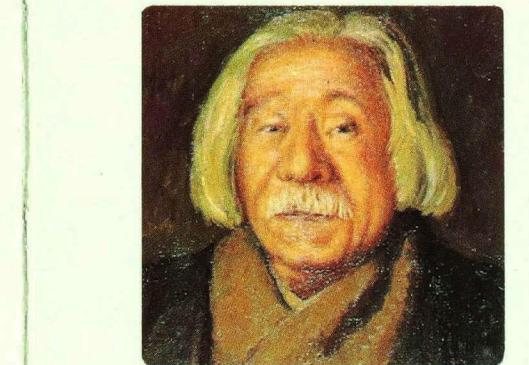
昭和62年9月、教育センターオープン。
10月
第1回熊本緑化祭開催
12月
母子福祉センター完成
8月
秋津市民センター完成

1986 61年1月
熊本市自転車駐車場完成
3月
電子計算システム始動
4月
西部清掃工場完成・
東部清掃事業所開所
7月
総合体育馆・青年会館開館
8月
第4回全国都市緑化くまもとフェア
開催(8月1日～10月12日)
10月
10月1日を「市民健康の日」と制定
62年1月
新西保健所開所
4月
川尻下水処理場運転開始
5月
「ふれあいの森林」
内に森林学習館がオープン
9月
西消防署が移転新築
教育センターオープン

昭和62年11月、新市庁舎建設完成。
1987
昭和63年4月、女性消防士誕生。
シンボルマーク発表会
長堀通り開通
昭和63年4月、長堀通り開通。
7月
大江市民センター完成
8月
江津湖まつり(マイソング発表会)
10月
くまもと緑化祭・地場産業振興フェア開催



昭和62年12月、
米国サンアントニオ市と
姉妹都市締結。



徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大きかった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、95歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市长として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大きかった。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月6日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎会長、肥後奨学会設立、多額の奨学生を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要な文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。

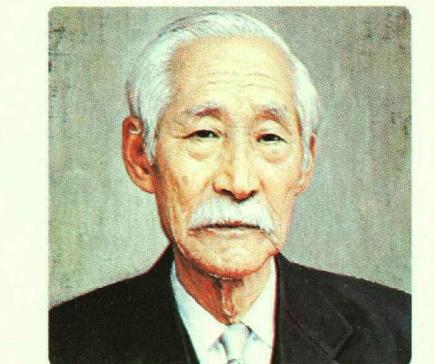


福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

医師開業のかたわら、医專五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。

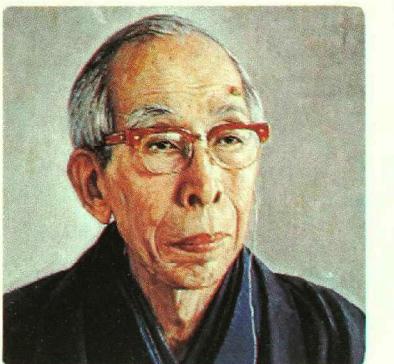
名誉市民



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

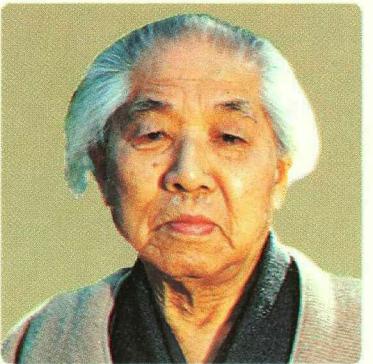
東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学客員教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学究者に多大の影響を与えた。明治8年12月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和44年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生きされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、88歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。